

大山八景

大山八景とは、江戸時代初期の『大山記』に記載されている大山の美しい風景の名所覚書です。

「波賀尾山の暮雪」は、西行の和歌にも詠われ「追手森の時雨」は、民話（追手の神と鐘ヶ坂）に繋がります。

「保谷（ホタニ）の夕照」も和泉式部伝説と結びつき「高蔵寺の晩鐘」は、明智の丹波攻めの哀悼です。

「大山谷の田植え風景」は、荘園文化の基盤であり「五本松の秋月」は、民話（姫塚の悲恋物語）の舞台となり、「塩路池の落雁」は、池水が海水のように満ち引きする不思議を讃え「籠原のせせらぎ」は、八束穂田の献上米を祝っています。全てが選出された名所ばかりです。



高蔵寺の晩鐘（高倉）



かんがわら
籠原のせせらぎ（大山上）



波賀尾山の暮雪（大山新）



五本松の秋月（町之田）
五本松の写真はイメージです。



ほたに
保谷の夕照（大山宮）



追手森の時雨（大山宮）



大山谷の田植え風景（高倉）



庄野池
塩路池の落雁（長安寺）